



今月号の内容

- 立教開宗の意義を思う(1面)
- 全国通信員会議開催
- 全国の聖徒さん紹介(2面)
- 日蓮大聖人の歩まれた道
- よろこびちゃんの質問箱
- 法華経のお話(3面)
- 全国のよろこびちゃん
- よろこび法話(4面)

平成27年(2015年)4月1日(水)
4月号

発行所
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-25-11
九段中央ビル702
日蓮宗霊断師会九段事務所
電話 03-6272-9340
FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 末吉 観道
編集人 松本 恵昌
購読料 1部 100円(税別)
毎月1回1日発行

日蓮宗霊断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

立教開宗の意義を思う



日蓮宗霊断師会 本部長
愛知県名古屋市長東区本成寺聖徒団团长



天野 行淳

四月二十八日、私たち法華経を信奉する日蓮宗徒にとって大切な立教開宗の聖日を迎えます。

宗祖日蓮大聖人は建長五年(一一三三)の同日、昇りゆく暁の朝日に向かって声高らかに、『南無妙法蓮華経』と唱えられました。時に大聖人三十二歳。清澄山旭が森にこだました壮大な立教の宣言でありました。

当時の世相としては貴族社会に変わり、地方武士が台頭した時代でした。特に武家権力の先兵として、地頭は支配権力が拡大していった時期でありました。

仏教界では奈良朝時代の俱舎宗、成実宗、三論宗、法相宗、華嚴宗、律宗といった六宗に加えて、平安朝時代の天台宗と真言宗、鎌倉時代に入って念仏宗と禅宗が起り割拠して行きました。中でも大聖人にとっては天台宗、真言宗、念仏宗、禅宗、律宗が特に目に映る存在でありました。

大聖人は弘法者としての第一歩として、持仏堂の南面において最初の説法をされました。まさに日

本國を背負い立つ大決心の表れでありました。

説法の内容は一代聖教の肝心な法華経であり、当時隆盛の極みにあつた法然念仏を痛烈に批判するもので、大聖人自身の信念の表明でもありました。

大聖人はこの立教開宗により、住僧であつた円智房・実城房や地頭東条景信により清澄寺から退出を余儀なくされましたが、これが「大難四ヶ度、小難数を知らず」と称される法難の始まりでもありました。

また大聖人は自身の立場を内相承・外相承という法門によって明示されています。

まず内相承によつて、釈尊と大聖人の信仰上の立場が同一である事が示されました。次に外相承ですが、これは三國四師相承とも言ひ、インド・中国・日本の三國と、釈尊・天台・中国の各師と大聖人による大乘仏教の正系、学問的な流れの正当性が明らかにされました。

このことは我々が良き縁を頂き



育んできたお題目信仰が、理論的にも裏づけされると言う事と同時に、大聖人に続く先師、团长、聖徒の皆様を釈尊、大聖人と同じ立場に位置付けることになりました。

立教開宗によつて大聖人に連なる先師や我々日蓮宗教師、俱生神月守を身に帯してお題目信仰に生きる聖徒の皆様を、釈尊として大聖人と同じ立場、同じ価値にまで押し上げて下されたのです。

お題目信仰により我々も御本仏様に連なる位置に立っているのです。

立教開宗により、釈尊・大聖人と私たちは同じ価値を持ち、同じ夢、同じ願いを抱くことが出来たのです。

しかしながら日常に私たちが懐く願いと言ひますと、家内安全・身体健全・富病平癒・交通安全...。それらの願ひの先には尊い佛としての願ひがある事に気がつかないければいけません。皆の願ひを総和した時、個々の願ひは本来持つべき願ひ「本願」に昇華していくのです。

個々の目先の願ひにとられることなく、本来持つべき願ひを我が願ひとした時、大聖人が持仏堂で南面されたように、本願に向けての大きな一歩が踏み出せるのです。

今年五月の身延大会の時期は、日蓮宗寺院の団体参拝のほか、多くの宗教団体の参拝が見込まれます。

今年五月の身延大会(第五十回記念大会)に参加を予定する聖徒団の皆様は、宿泊先である宿坊・旅館等に早目のご予約をお願い致します。

私達の願ひは佛願、祖願そのものであり、佛願、祖願こそ私たちが懐く大いなる願ひなのです。

大聖人の使命は、私たちの尊い使命。

平成二十七年という時代を御本佛様から託された私たちは、御本佛様に成り代わつて、御本佛様の願ひを我が願ひとし、御本佛様の夢を我が夢とし、御本佛様の役割を我が役割として、『南無妙法蓮華経』の道を持ち、行い、護り、弘め歩んでいくのです。

立教開宗の聖日を、大聖人が初めてお題目を唱えられた記念日と言ふだけでなく、私たちの立場に大いなる意義付けを頂いた聖日なのです。

いよいよ来月は身延結集 第50回記念大会!!

5月23日(土)
・24日(日)



今年五月の身延大会について

今年五月の身延大会(第五十回記念大会)に参加を予定する聖徒団の皆様は、宿泊先である宿坊・旅館等に早目のご予約をお願い致します。

計 報



北海道北東支部支部長、北海道教区長、日蓮宗霊断師会組織部次長、理事を歴任。現在も常任理事・会計監査を務め、日蓮宗霊断師会の強き支え、中核として活躍。

北海道 東光山妙正寺第五世、真照院日仁上人(関龍雄上人)におかれましては、去る三月四日、世壽六十六歳を以て御遷化されました。

本葬儀は同月九日に営まれ、天野行淳本部長が参列。本会を代表して、弔辞を述べられました。

茲に本会発展の為に長年に亙り御尽力賜りました御功勞に深謝し、謹んで増圓妙道をお祈り申し上げます。

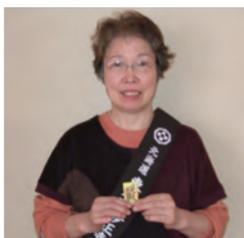
津軽宇田山 間法寺



毎月 5時半より「朝勤祈禱会」
毎月 最終日曜日「盛運祈願会」
毎月 第2土曜日
午後3時より「唱題修行」
午後4時より「勉強会」

〒030-1403
青森県津軽郡外ヶ浜町平元宇田52-2
TEL 0174-25-2712

住 職 工藤 堯幸
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯



妙正寺聖徒団
川嶋 映子

毎月1日午前10時 せいふん きがらえ 盛運祈願会

北海道妙正寺聖徒団

〒071-1423
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166(82)2714
FAX 0166(82)2914



いかされるよろこび

美濃乃國 常唱寺 聖徒団

〒501-3734
岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430



本山 妙頭寺

天目聖人御報恩
平成屋根等大改修
ご寄付募集中!

●郵便振替
口座番号 00180-6-267327
TEL 0283-22-1524
口座名義 妙頭寺建設委員会
〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264
TEL 0283-22-1524
FAX 0283-22-4194
http://www.sano-myōkenji.jp



日蓮宗霊断師会終身名誉会長 感通寺聖徒団团长

新聞 智雄
〒162-0044
東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782
FAX 03-3208-7966

第四十四回 日蓮大聖人の歩まれた道

比叡山での修学(その六)

靈断院教学部長
小泉 輝泰

「源信(恵心)僧都の意(こころ)は、四威儀に行じ易きが故に念佛をもつて易行と言ひ、四威儀に行じ難きが故に法華をもつて難行と称せば、天台、妙楽の釈を破る人なり」(守護国家論)

三塔総学頭と称えられた俊範より天台教義の奥義を学んだ蓮長は、天台本覚法門の精髓に触れ「一切衆生は皆佛である」との確信を強めていきました。しかし俗世の有り様を見れば、民は飢えや病に苦しみ、施政者は己の利権を争うばかりで、とても佛の姿とは思えません。それどころか当時の比叡山々内であっても、佛はもとより、佛身を成就せんと修行に励む僧侶の姿すら、誰一人として見ることが出来ません。それというのも「中古天台」と呼ばれる悪しき時代の思想が、山内に蔓延していたからなのです。

「中古天台」とは、十一世紀末から十七世紀にかけての天台学を呼称するものです。蓮長が比叡山を訪れたのは十三世紀半ばですので、山内の学风は既にこの中古天台期となっていました。

中古天台の教義では、恵心流の本覚法門が主流とされました。「本覚」とは「本より覚あり」、すなわち私たち誰もが無上の悟り(佛)をその身の内に秘めているという意味ですので、成佛を至上の目標とする佛教



においては、何よりも大切な教えとなります。

天台宗の始祖である天台大師も、法華經の教義を探求した結果この本覚に注目をし(天台大師は本覚という語は用いませんが)、一切衆生の成佛の可能性を見出します。そして自身の内に秘めたその至宝を確かめんとして、「止観」の行を定めたのです。それ故に、天台学の流れとは、すなわち本覚法門が直流であるといつても過言ではないのですが、中古天台の本覚法門が、後に宗史上最最大の汚点とまで言われてしまうのは、偏にその歪んだ解釈によるのです。

中古天台の本覚法門の特徴は、極端な現実肯定主義にあると言えます。平たくいえば、「最初から佛なんだから、着の身着のまま何をしても良いじゃないか」ということです。これでは誰一人として学問も修行もしなくなってしまう。もつと悪いことには、物を盗んでも、人を殺めても、佛なんだから良いだろうといった、大変な考えに至ってしまうのです。これでは何の為の成佛なの



か分かりません。

またすべてを肯定していきますので、世に念佛が流行れば「それも良いじゃないか」と安易に迎合していきます。後に日蓮大聖人は、『立正安国論』や『十章鈔』にて「或は四百余回の如法経を止めて西方浄土の三部経となし、或は天台大師の講を停めて善導の講となす。かくのごとき群類、それ誠に尽し難し」、「当世に父母を殺す人よりも、謀反をおこす人よりも、天台・真言の学者といわれて、善公が礼讃をうたい、然公が念仏をさいざる人々はおそろしく候なり」と当時の山内の様子を大變嘆かれています。

また以前ご紹介したように、清澄にて師道善房に勧められて称名念佛に励んだ事もあるといった過去があるのも、このような天台宗に蔓延する悪しき時代の影響があったのです。

よろこびちゃんの質問箱



よろこびちゃん

身延大会ってなあに？

今年も身延大会が近づいてきたわね。

身延大会ってというのは地涌の菩薩である聖徒さん達が、一年間お題目を唱え、俱生神月守を着帯し、護られてきた信仰のよろこびを総本山身延山久遠寺で、日蓮大聖人さまにご報告する報恩感謝の大会なの。

またこれから気持ちを新たに信仰を誓い合う、とても感動的な聖徒さんのための結集大会なのよ。昭和四十一年第一回大会から始まって、今年でなんと第五十回!

(結成大会は昭和四十年)

今年には特に記念大会だから歌手のコンサートや節題目の奉納万灯行列、前夜祭では花火も打ち上げられるのよ。

大会も、全国の皆さんと会えるのも、とっても楽しみだわ。聖徒の皆さん、五月二十二日、二十四日は身延山でお会いしましょう!

我らは
聖徒く地涌の菩薩



法華經のお話 ④2

靈断院主任 塩入 幹丈

無量義經の段

①我が手に掴めぬもの無し!

(豊臣秀吉)

『法華經』というお経のタイトルである「南無妙法蓮華經」こそが、私たち迷える凡夫に贈られた「救いの切り札」であり、「究極の救いの手」だったのです。た・だ・し・あ・く・までもそれは、「外から来る救いでは」ということです。

究極の救い、本当の幸福たる成佛への鍵は、ただ外から、つまり他者から与えられるだけでは、残念ながらパーフェクトとは言えないんですね、これが。

そう、切り札たる究極の救いの手は、実は受け手である私たちの内にもあるのです。

「譬は高き岸の下に人ありて登る事あたはざらん、又岸の上に人ありて繩をおろして、此繩にとりつかば我れ岸の上に引登さんと云はん、引人の力を疑ひ繩の弱からん事をあやぶみて、手を納て是をとらざらんが如し。争か岸の上に登る事を

うべき。若其詞に随ひて、手をのべ是をとらへば即登る事をうべし。唯我一人能為救護の佛の御力を疑ひ、以信得入の法華經の教への繩をあやぶみて、決定無有疑の妙法を唱へ奉らざらんは力及ばず」

(持妙法華問答鈔)

いかに優れた名馬でも、乗りこなせる優秀な騎士がいなければ、名馬も真の力を発揮することなく、いかに強力な必殺技といえども、それを使える術者なくしては何の意味もなさない。

同様に、いかに壽量(本佛・釈尊)の究極の救いの手である、「南無妙法蓮華經」のお題目といえども、受け手である私たちに、それを受容できる器がなくては、何の意味も成さないわけですね。そのお題目を受けとる器こそが、実は「南無妙法蓮華經」という名で呼ばれる、いま一つ存在なのです。

②もうだれにもバカにさせない。みんなにばくの名前を覚えさせてやる、

明晴の吉田剛だ!

(吉田剛)

吉田剛くんはどんなに頑張ったんだ。天才の上杉達也には叶いませんでした。いかに天津飯やクリリンが修行を極めても、サイヤ人の血筋の前では意味もありませんでした。これらは生れ持った能力の差が、いかにともし難いという残酷な例。

されど究極の救いの手たる「南無妙法蓮華經」を受け取る器には、そんな差別はありません。誰もがお題目を受け取る器、能力を持っています。



「無作三身の宝号を南無妙法蓮華經と云ふなり」(御義口伝)

外から来るお題目を受け取るのは、やはり私たちの内なるお題目です。

私たちの心の中にも、実はご本佛さまが存在しており、そのご本佛さまの名を、「南無妙法蓮華經」とお呼びするのです。

「我が己心の妙法蓮華經を本尊とあがめ奉りて、我が己心中の佛性、南無妙法蓮華經とよびよばれて、顕れ給ふ処を佛とは云うなり」(法華初心成仏鈔)

(法華初心成仏鈔)

外に在らずご本佛・釈尊がお与え下さる救いの手である「南無妙法蓮華經」(お経のタイトル)と、私たちの内なる「南無妙法蓮華經」(己心のご本佛のお名前)とが呼応する時、真の救いは実現するんですね。

「譬へば籠の中の鳥なれば、空とぶ鳥のよばれて集まるが如し。空とぶ鳥の集まれば籠の中の鳥も出でんとするが如し。口に妙法をよび奉れば、我身の佛性もよばれて必ず顕れ給ふ。梵王、帝釈の仏性はよばれて我等を守り給ふ。佛、菩薩の仏性はよばれて悦び給ふ」(法華初心成仏鈔)

(法華初心成仏鈔)

己心のご本佛さまは、誰にでも存在しています。大切なことは、それを知り、そして信じていることです。それと同様に、外からの救いの手であるお題目の力を信じていることも、もちろん重要なのです。

よるこび法話

あぶつぼう 現代によみがえる阿仏坊夫婦 続編



岐阜県郡上市妙法寺聖徒団团长
二木 一乗

夫・八十五歳、妻・八十四歳、聖徒である老夫婦のお話です。この法話は、平成二十三年十二月一日発行、よるこび法話の続編となります。それでは前回のあらすじから。

この老夫婦は、祖山・靈跡由緒寺院をはじめ、全国の日蓮宗寺院に参拝して《御首題》を頂戴する《御首題行脚》を続けておりました。しかし、平成二十二年は齡からの体調不良、平成二十三年九月下旬には夫が軽度の脳出血の手術。靈断のご教示により大事無く、術後一週間で退院し自宅療養となり、遠方を巡る《御首題行脚》を断念せざるを得なくなりました。更には、二十年以上も毎年欠かさず参詣していた、元日の身延山初参りも見合わせる事となりました。

日蓮が弟子檀那等は此山を本として参るべし。此則ち靈山の契り也。(中略) 縦いづくにて死候とも、九箇年の間、心安く法華經を誦し奉り候山なれば、墓をば身延山に立させ給へ。未来際までも心は身延山に棲む可く候。

『波木井殿御書』

团长である筆者は、十数年来ご縁あつて『全国聖徒団結集身延大会』のお手伝いをしております。老夫婦の一助となればと思ひ、平成二十四年から共に大会に参加するようになりました。しかし、平成二十六年五月二十一日の大会参加後の六月下旬、夫は体調不良となり、一時は寝床から起き上ること、歩くことも妻の介助が必要となりました。病院での検査の結果、全ての数値は正常であり一過性の年齢的な症状であるとの診断でした。

靈断のご教示・五種護符を服し、木剣加持祈禱・施餓鬼供養を修し、一心の祈りもあつて日常生活に支障が無い程度までになりました。平成二十七年一月、當山の新年三カ日初参りに杖をついて詣でたおり、老夫婦は「今年も身延大会(五月二十三日〜二十四日)に行きたい。最後になるかもしれないから、お祖師さまに感謝の祈りを捧げ、身延

に行つたら毎回お参りしている寺院・宿坊商店にお世話になつたご挨拶を直に伝えたい。そのため身延は坂道ばかりだから、いまま家の中で意識的に歩くようにしている。暖かくなつたら近所を散歩し、徐々に距離を延ばす。《身延参り》する。それが今の最大の目標。」とのことでした。筆者も、その意を助力すべく今年も同伴を約束しました。

法華經を信ずる人は冬のごとし。冬は必ず春となる。いまだ昔よりきかず、みず、冬の秋とかへれる事を。いまだきかず、法華經を信ずる人の凡夫となる事を。経文には「若し法を聞くこと有らん者は、一人として成仏せずということ無けん」と、説かれて候。

『妙一尼御前御消息』

このお言葉の意は、法華經・お題目を信じる人は、季節でいうと冬の中にあるようなものです。冬は必ず春となります。それと同様に、法華經・お題目を信じる人も希望がしたいに開けて行くのです。いまだに昔から聞いたたり見たりしたこともありません、冬が秋に逆戻りしたなどということ。それと同様に、いまだ聞いたことがありません、法華經を信じる人が凡人に戻つてしまつたなどということ。方便品には「もし法華經を聞いた人は、一人として成仏しないことはない」と説かれています。法華經・お題目の信仰とは、昨日に感謝し、今日に祈りを捧げ、明日に希望が開けることを信じ、実践し、そして体感する信仰なのです。



本誌イラスト 小川けんいち

全国のよるこびちゃん vol. 11



もうすぐ2歳になります。お話がたくさんできるようになりました。アンパンマンが大好きな雪那ちゃん。元気にすくすく育ちますように！

全国のよるこびちゃんを募集しています！

宮崎県
本光寺聖徒団

河野 雪那ちゃん
平成25年5月28日生まれ

家族みんなを着帯しましょう



俱生神月守は、宗旨(家の宗教)に關係なく持つことができるお守で「ぐしょうじんつきまもり」と読みます。

このお守は俱生神さま(同生天と同名天というお二人の神さま)が「あなたを護ります」という契りの符(あかし)です。

●同生天：あなたの生命(健康)を守って下さる神さま。
●同名天：あなたの生活(経済)を守って下さる神さま。

●家族みんなを着帯しましょう：家庭円満に安心して過ごせます。

●知人の悩みにも：分かち合うことの喜びを味わえます。

●引越しや旅行の時に：方位除け・盗難除けとして。

●靈断を受けたら：まず着帯して下さい。良い結果が訪れます。

※お寺の鬼子母神様、お稲荷様等のお札・お守と一緒に持たれても結構です。

〈大切なこと〉

○お題目を信じ、唱えて下さい。

○いつも肌身離さず月守を着帯して下さい。

○毎月、月初めに新しい月守と必ず交換して下さい。

利生寺



日蓮宗靈断師会会長
利生寺聖徒団团长
末吉 観道
副团长
末吉 正道

〒930-0055 富山県富山市梅沢町3-16-10
TEL.076-421-8776 FAX.076-421-8250

正蓮寺



日蓮宗靈断師会 副会長
日蓮宗宗会議員
正蓮寺聖徒団 团长
大塩 孝信

〒290-0151 千葉県市原市瀬又134-1
TEL.0436-52-0207
FAX.0436-52-2288

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻
内陣莊嚴具 設計製作

(株)中野三佛屋

東京都台東区寿2丁目7の12
電話 03 (3843) 6951
FAX 03 (3843) 6973
定休日 日曜日

法華寺



生きて救われの道場

住職 阿部 是秀
副住職 阿部 是眞

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

安房乃國隨一 三十番神祈願道場



顕本寺聖徒団
团长 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」
〒295-0002
千葉県南房総市千倉町川合690-1
TEL.0470-44-1062
TEL.0470-44-1524